

高品質な水稻種子の栽培に向けて
肥培管理を徹底しています。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

両親が農業を営んでいたため、幼い頃は春先の忙しい時期だけ農作業の手伝いをしていましたが、力仕事や汚れることに多少抵抗があり、農家を継ぐことを考えたことはありませんでした。そのため、高校を卒業後は専門学校へ進学し、三笠市内の建設会社に就職しました。

就職してからでも農業に携わるつもりはありませんでしたが、会社での忙しい日々を送る私の姿を見ていた妻や両親から「自分で時間を調整できる農業という道もあるのでは」と勧められたことをきっかけに、30歳から農業に携わるようになりました。

2 就農当時のこと

当時は農業機械の操作に慣れていなかったため、機械を壊してしまうこともあり、父に厳しく指導されていました。しかし、農家になってからは会社員の時よりも、自分の都合に合わせて時間を使えたり、収入が増えたことなど、今では「農家になってよかった」と実感しています。今年で農業に携わって14年目を迎え、安定した経営に向けて頑張っています。



3 仕事をするうえで 気を付けていること

特に品質管理に気を付けています。水稻の種子栽培は、一般的な農作物とは異なり、来年に水稻生産者が栽培するための種子を作っているため、高品質の種子を栽培するために、生育状況に応じた適期防除や適期刈取を心掛けています。

昨年は天候にも恵まれ、収量・品質ともに満足のいくものとなりました。今年も、昨年と同様に高品質な種子を栽培できるように肥培管理を徹底していきたいです。

4 目指す農家像



安定した収入を確保し、リスクの少ない農業経営ができる農家を目指していきます。農業は自然が相手なので、天候に大きく左右されますが、その中でも安定した収量と品質を保てるように、管理作業の徹底を心掛けていきたいです。

妻や子どもは農業に携わっていないので、現在は主に両親と3人で農業に励んでいます。担い手不足の中ですが、効率的に安定した営農ができるように努めています。

人物 memo

岩見沢市栗沢町幸穂
金田 有二 さん(43歳)

父の功さん、母の千恵子さんの家族3人で約14haの農地に水稻の種子を栽培。専門学校を卒業後、三笠市内の建設会社に就職。当初は農業に携わるつもりはありませんでしたが、妻と両親の助言をきっかけに30歳で農業に従事。安定収入確保のため、収量・品質の向上に向けて取り組んでいます。